

### ⑬エセ同和事件

大阪府では、二〇一一年五月一三日、会員など一五〇名が参加して大阪市港区のHRCビルでひらかれた、えせ同和行為等根絶大阪連絡会議の第五回総会で、二八団体で出発してから四年が経過して加盟団体が一二〇に増え、当初の「困っている」という相談から「こんな行為があったが、きちんと断った」という報告も増えてきたことが報告された。その一方でまだ匿名での相談希望も多く、エセ同和行為に対して怖いというイメージも根強く残っていることが指摘された。二〇一〇年度は、電話をかけてきて数日後に書籍を送りつけてくるなど、「部落解放人権協議会」を名乗る書籍等購入の強要が、九月六日を皮切りに一一件、その他にも「全同総研」や「同胞会」などと名乗る事例が二件、計一三件が受理され、実際に送りつけられた書籍が五冊集約されたことなどが報告された。

その他、香川県、和歌山県、福岡県などでも高額書籍の購入強要や寄付金要求などが集約されているほか、香川県では、私立高等学校教諭がコーチを務めていた部活動の経理について経営者側に開示するよう追及を受け、「解放同盟県連に相談して、差別と言われた」「解放同盟県連が糾弾会を開いてくれる」などと脅す、といったエセ同和発言も報告されている。